

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その99

やしやぬま 安座の八蛇沼伝説は本当だった？

文：田崎 敬修

『にしあいづ物語 100選 その46「安座集落・八蛇沼の大蛇伝説」』にて、昔、安座は大きな沼で大蛇が住んでおり沼沢湖と繋がっていたという奇想天外とも思える伝説を紹介しました。

安座の景観は少し変わっていて平坦な水田面から急に険しい山々がそそり立っているのです。このような景観は長野の日本アルプスの縮小版を見ているようで会津では稀です。どうしてこのような景観が誕生したのでしょうか。牧から安座に安座川をさかのぼっていき、磐越自動車道高架橋を過ぎ急坂にさしかかった辺りで道路右端の崖下をのぞくと、眼下に安座川の目もくらむようなV字谷（峡谷）を目の当たりにします。これは安座川が平地の高さになるよう山地を下方浸食しているため、別に不思議ではありません。やがて道は平坦になり前方に下安座集落が見えてきます。この場所は標高約250mで、安座集落の入り口にあたる下安座（標高245m）より5m程高くなっています。安座地内の安座川は下方浸食を全くしておらず、坂の途中で見て来た深く浸食されたV字谷の連続が見られるはずなのにどうしたことでしょうか。

その謎は下安座集落が見えてきた標高約250mの平坦地付近の安座川を見てみると解けます。安座川が大量の土石でダム状に堰き止められているのです。この土石は安座川の東南に位置する宮ヶ岳（485.6m）の北東に伸びる尾根の剃刀の刃のように切り立っている部分から崩落してきたものです。この山体崩壊が起こる前の安座は、安座川が約1600万年前に堆積した滝沢川層と呼ばれる凝灰岩類の柔らかい岩質の山体を深く浸食したV字谷でした。山体から崩落した大量の土石は下安座付近でダムを作り安座川を堰き止め、V字谷は日に日に水で覆われ水底には安座川が運んでくる凝灰岩類の細粒堆積物がどんどん堆積していきました。八蛇沼伝説が生み出された景観の誕生です。

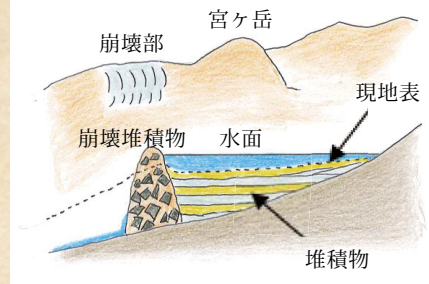
やがてダムの一部が決壊し、満々と水を貯めていた八蛇沼の水が抜けて現在の地形面が現れます。大蛇やムカデがいたかどうかはさておき、安座が大きな沼だったことは本当でした。

安座の河床面がほとんど下方浸食されていないのは現在のダムの高さが浸食基準面となっているからです。宮ヶ岳の山体崩壊は地震が原因と思われます。時期については不明ですが、それほど古くはないのかもしれませんが。

※訂正

前号の初代野沢町長 斎藤兵鬼千氏の名前の読み方は「へいきち」ではなく「ひょうきち」でした。

八蛇沼のでき方模式図



今月の表紙

今月の表紙は、10月25日・26日に行われたふるさとまつりから。秋晴れの空の下、訪れた皆さんが楽しんでる姿がとても印象的でした。

編集後記

ポインセチアやシクラメンが店頭を彩る季節となりました。子どもたちは、クリスマスや雪が降ることを心待ちにしている一方、私たち大人は大雪になるのでは…と、ちよっぴり心配しつつ冬本番の準備に追われる毎日です。寒さ対策を万全にして、この冬も元気に乗り越えたいですね。（三留）

